

地域に伝承する日本民踊の教材の制作とその指導法について
—大田市大森町に伝承する石見銀山捲上げ節に着目して—
On the Creation of Teaching Materials for Japanese Folk Dances
Passed Down in Local Communities and Their Teaching Methods:
Focusing on the Iwami Ginzan Roll-up Bushi Passed Down in Omori-
cho, Oda City

梶 谷 朱 美
(保育学科)

キーワード：ダンス教育、日本民踊、教材の制作、指導法、教科等横断的な
学び

1. はじめに

現代では、日常的にテレビや SNS から様々なダンスを見ることができる。また、2024年（令和6年）に開催されるパリオリンピックからブレイキン（ブレイクダンス）がオリンピックの新種目として採用され大きな話題となっている。

学校教育では、この「ダンス」を扱うのは、表現運動・ダンス領域（小学校低学年の「表現リズム遊び」、中・高学年の「表現運動」、中学校以降の「ダンス」）である。

学校体育におけるダンスは、戦後の教育改革のなかで、「創作ダンス」が取り入れられ現在に至るが、1989年（平成元年）の中学校学習指導要領、および高等学校学習指導要領の改訂で、中学校と高等学校が男女共修となり、1998年（平成10年）の改訂では、小学校表現運動領域の内容に「リズムダンス」が、中学校・高等学校ダンス領域に「現代的なリズムのダンス」の内容が加わった。さらに、2012年（平成24年）度には中学校において「武道」と「ダンス」が必修化され、ダンスの学習内容については、小学校、中学校、高等学校における12年間の学びの連続性が重視されている（下記の表1参照）。近年のダンス文化の隆盛は、生涯スポーツを希求する学校体育の影響も大きいと言えるだろう。

本研究で取り扱う日本民踊の「石見銀山捲上げ節」は、学校体育におけるダンス領域では、フォークダンスの内容（下記の表1参照）に入る。ただ、日本民踊は、総合的な学習の時間で学んだり、運動会などの体育的行

事（特別活動）で踊ったりすることも多く、教科等横断的に取り扱われることで伝承されてきた踊りの文化や背景を深く学ぶことが可能である。

表1 表現運動、ダンス領域の学習内容（梶谷作成）

学年	小学校第1学年及び2学年	小学校第3学年及び4学年	小学校第5学年及び6学年	中学校第1学年及び第2学年	中学校第3学年高等学校入学年次	高等学校その次の年次以降
領域名	表現リズム遊び	表現運動	表現運動	ダンス	ダンス	ダンス
学習内容	表現遊び	表現	表現	創作ダンス	創作ダンス	創作ダンス
			フォークダンス	フォークダンス	フォークダンス	フォークダンス
	リズム遊び	リズムダンス		現代的なリズムのダンス	現代的なリズムのダンス	現代的なリズムのダンス

2. 本研究の背景

1) 島根県の民踊について

島根県には、豊かな自然風土や多様な歴史文化から県内各地に伝承される日本民踊は多く、以下の表2に示すように多彩で特色のある踊りが多い。島根県の日本民踊は、公益社団法人日本フォークダンス連盟¹⁾の監修する「ふる里の民踊」²⁾に18曲が認定され、また、全日本民踊指導者連盟³⁾が監修する「たのしい民踊」⁴⁾には12曲が認定されている。「安来節」や「関の五本松」等の全国的に有名な民踊も多い。

表2 公益社団法人日本フォークダンス連盟「ふる里の民踊」と全日本民踊指導者連盟「たのしい民踊」に認定された島根県の民踊一覧（梶谷作成）

西暦（和暦）	「ふる里の民踊」	「たのしい民踊」
1966年（昭和41年）		第2回 地島唄
1967年（昭和42年）	第7回 石見銀山捲上げ節：大田市大森町	
1970年（昭和45年）	第10回 関の五本松：松江市美保関町	第6回 益田願力おどり：益田市
1971年（昭和46年）	第11回 安来節（女踊り）：安来市	第7回 出雲音頭：出雲市
1973年（昭和48年）	第13回 隠岐しげさ節：隠岐	
1975年（昭和50年）	第15回 キンニャモニャ：隠岐	
1979年（昭和54年）	第19回 津和野盆踊り：津和野町	
1984年（昭和59年）	第24回 琴々浜盆踊り（一つ橋・願成就）：大田市仁摩町	第20回 浜田節女踊り：浜田市
1989年（平成元年）	第29回 玉造温泉盆踊（茶町通）	

	い) 松江市玉湯町	
1992年(平成4年)	第32回 弥栄ぼんでん(おせき口説): 弥栄村	第28回 隠岐相撲取り節: 隠岐
1997年(平成9年)	第34回 河下盆踊り出雲市河下町	
2000年(平成12年)		第36回 隠岐しげさ節(ナベのふた踊り): 隠岐
2001年(平成13年)	第41回 市木ハンヤ節: 浜田市旭町	
2003年(平成15年)	第43回 比田踊り(こだいじ): 安来市広瀬町	
2009年(平成21年)	第49回 羽根盆踊り: 出雲市斐川町	
2010年(平成22年)	第50回 キンニャモニャ: 隠岐	
2011年(平成23年)		第47回 島根町大漁節: 松江市島根町
2012年(平成24年)	第52回 木次盆踊り: 雲南市木次町	
2013年(平成25年)		第49回 浜田節: 浜田市
2014年(平成26年)	第54回 神門盆踊り: 出雲市神門町	
2015年(平成27年)	第55回 隠岐磯節: 隠岐	第51回 若松様: 松江市島根町
2016年(平成28年)		第52回 ホーライエッチャ: 松江市美保関町
2018年(平成30年)		第54回 正調関乃五本松節: 松江市美保関町
2019年(令和元年)		第55回 島芝翫節: 松江市八束町
2022年(令和4年)	第62回 宍道盆踊り(コダイジ踊り): 松江市宍道町	

2) 石見銀山捲上げ節について

本研究で取り扱う石見銀山捲上げ節は、表2から分かるように島根県で初めてふるりの民踊りに認定された由緒ある踊りである。

石見銀山では、作業の効率をあげるために坑内唄、いわゆる労作唄を歌った。今でも残っている坑内唄は、銀堀(かねほり)唄と捲上げ節の二つだけである。一番よく知られている唄は、明治20年(1887)以降、藤田組により操業された「佐藤鉦(つる)」と呼ばれる鉦脈のうち35番坑から生まれた捲上げ節である。

捲上げは、鉦石の入ったタゴを立坑(さもと)の底から巻き上げる作業のことである。若い娘たち4人が、地下300メートルの立坑の座元(地底)から鉦石の入った重いタゴをロープで巻き上げた。紺の筒袖の着物に、赤い腰巻、首には豆絞りの白い手拭い、足には脚絆と藁の足半(あしなか)といういでたちであった。手を休めることのできない重労働で、捲上げ節を歌いながら力を合わせて懸命に作業を行う娘たちのことがしのばれる。

「スッチョイ、スッチョイ」というハヤシ言葉は滑車ロープのきしむ音を表している。石見銀山に生きた女性の歴史を物語る貴重な唄と踊りである。

3. 本研究の目的

戦国時代から銀が採掘されていた石見銀山は、1943年（昭和18年）の大洪水により閉山し400年の幕を閉じる。その後、1969年（昭和44年）4月に国の史跡指定を受けた際に、由緒ある坑内唄を史跡とともに後世に残すために踊りの振付けが新たに考案された。それが「石見銀山捲上げ節」の原形である。

この踊りは、前述したように、公益社団法人日本フォークダンス連盟「ふる里の民踊」に島根県で初めて認定された踊りであり、銀鉱山で実際に女性が働いていたことを物語る文化財的な価値がある。しかし、近年では、振り付けを解説する動画もなく、日本フォークダンス連盟に簡単な絵図と解説文が残る程度で途絶える危機にあった。

そこで、本研究では、学校教育におけるフォークダンスの素材を島根県フォークダンス連盟⁵⁾とともに発掘し、教材としての内容を整え、教材を制作して指導の方法を明らかにすることを目的とする。石見銀山の歴史、文化そのものを象徴するこの踊りが地域の教育資源として学校教育で取り上げられ、教材として子どもたちに提供されることで、体育学習のみならず総合的な学習の時間や特別活動等においても活用されることを願いこの研究に取り組んだ。

島根県や地元、大田市の住民をはじめ、未来を担う子どもたちに普及することで地域が活性化され、石見銀山の歴史と文化を感じながら、ふるさと大田市に誇りと愛着が深まることを期待している。

4. 本研究の方法

1) 全体の概要と視点

本研究では、2023年（令和5年）4月から現在に至るまでの石見銀山捲上げ節の記録・保存、普及活動を次の3点から考察する。

- (1) 行政や関係機関と連携協働する取組
- (2) 踊りの教材制作と情報発信活動
- (3) 学校教育におけるフォークダンス（日本民踊）の指導

5. 研究活動の具体

1) 行政や関係機関と連携協働する取組

本研究では、まず、筆者が面識のあった大田市教育委員会の武田祐子教育長を通して大田市の首長や行政、関係団体に働きかけた。本活動の目的と見通しを分かりやすく文書にまとめて提示すると同時に対面で説明する機会を設定（5月29日）していただいた。

島根県大田市は、石見銀山世界遺産登録 20 周年（2027 年）に向けて、銀山遺跡の宝庫であるポーランドとの国際交流を進めておられた。教育長をはじめ行政関係者が国際交流の進展と観光振興を図るためにポーランドに出向かれた時期と重なった。そのことが筆者の思いを受けとめ、本研究にご理解、ご協力いただくきっかけにもなった。大田市教育委員会石見銀山課や石見銀山資料館、地元、大田市大森町の町並み交流センターと迅速につながり、筆者が大田市に初めて伺ってから 2 か月という短い期間で、地元で伝承されてきた方々、30 代から 90 代までの 15 名の地元有志の皆さんにご参集いただき踊りの動画収録（期日：7月31日 会場：大森町街並み交流センター）を行うことができた。



写真 1 動画収録風景

写真 2 大森町有志の皆さんとスタッフ

（写真 1 と写真 2 は、島根県市町村総合事務組合「しまねまちなび」提供）

2) 踊りの教材制作と情報発信活動（パンフレット及びDVD作成、YOU-TUBE 発信）

踊りの記録保存と同時に学校教育の中で活用できる踊りの教材制作を念頭に置いて活動を進めていった。石見銀山に伝承されている労作唄と踊りを子どもたちから高齢者までのすべての世代に踊りの由来や踊り方が理解できるように制作活動に取り組んだ。

まず、公益社団法人日本フォークダンス連盟編集「ふる里の民踊Ⅳ」と島根県教育委員会発行（1986年3月）「島根県の民謡 民謡緊急調査報告書」に掲載された石見銀山捲上げ節の絵図や踊り方の解説、歌詞や楽譜を参考にし、伝承されてきた実際の踊りとの差異を確認し訂正する作業を行った。次に、石見銀山資料館長の仲野義文先生にこの踊りの時代考証や実際に女性が銀鉱石を捲上げていたことを証明する古文書などを資料として提供し

ていただいた。

パンフレットや DVD の文言やナレーション等は、学校教育の教材として子どもたちに理解できる簡易な文章を心がけ、踊りについても輪踊りだけではなく、指導者が踊りの動き一つ一つを解説する映像を加えていった。前編、後編を通して写真と動画にナレーションを加え、この踊りの魅力や価値が立体的に伝わるように工夫した。なお、著作権や肖像権に抵触しないように十分に注意を払ったことは言うまでもない。

そして、後世に伝えていきたい思いから「未来へつなげよう！石見銀山捲上げ節」をテーマにパンフレット及び DVD、YOU-TUBE の 3 つの媒体を制作し発信を行った。YOU-TUBE の内容は、DVD と同様に下記のとおりである。

タイトル「未来へつなげよう！石見銀山捲上げ節」

- <前編> 1. 石見銀山捲上げ節の歴史と背景
2. 石見銀山捲上げ節の記録・保存に向けて
 エンドロール
- <後編> 3. 石見銀山捲上げ節の唄と踊り（大森町の皆さんの踊り①）
4. 石見銀山捲上げ節の唄と踊り（大森町の皆さんの踊り②）
5. 石見銀山捲上げ節の唄と踊りの解説（指導者による解説）
6. 石見銀山の歌 3曲の曲名
 石見銀山大盛の歌三夜節、捲上げ節、銀（かね）堀り唄
 エンドロール

パンフレットは A3 判見開きカラー印刷で内容は次に示すとおりである。パンフレットには QR コードを添付し YOU-TUBE につながるようにすることで視聴覚教材としての役割を果たすように工夫した。（下記写真 3 参照）

パンフレット タイトル「未来へつなげよう！石見銀山捲上げ節」

1. 石見銀山捲上げ節の記録・保存に向けて
2. 歴史と背景
3. 唄と踊りの由来（QR コードを添付し上記の YOU-TUBE につながる）
4. 石見銀山捲上げ節の楽譜と歌詞
5. 後付け

パンフレットは、令和 5 年 10 月 10 日(火)に大田市役所において贈呈式を執り行っていただき大田市の所帯数である 13,000 部を大田市へ贈呈した。このパンフレットは、贈呈後も大田市独自で新たに再版印刷され、踊りの普及や観光に活用されている。

- ・指導者：島根県フォークダンス連盟の多久和淑子氏と筆者
- ・留意点：今後の学習のためにパンフレットとDVDを謹呈する

板書内容

11月7日 めあて：石見銀山捲上げ節を覚えよう 10:35～11:20

※労作唄 銀掘唄

捲上げ節 →1967年(昭和42年)踊りの振り付け

- (1) 指導者の自己紹介と大田小6年生の銀山学習について
- (2) 概要説明
- (3) 踊りを見る
- (4) 踊りを覚える 前奏7呼間を聞いて+36呼間 反時計回り
- (5) 質問コーナー →輪になって踊りを行う
- (6) ふりかえり

☆衣装である敷松(しきまつ)や足半(あしなか)も実物を提示

大田市内の6年生は、総合的な学習の時間で石見銀山学習に取り組んでいる。特に、大田小学校の6年生は「在住の外国の方に石見銀山の魅力を伝えよう」と地元の人ばかりではなく、来県している外国の方々にも石見銀山の価値や魅力を伝えようと銀山学習を行っていた。

大森町の町並みや銀鉱山間歩などを訪れたり、銀鉱石の精錬法などの学習を博物館で進めたりする等、石見銀山を様々な角度から学んでいた。事前の学習から、石見銀山捲上げ節にも興味関心をもち熱心に授業に取り組んでくれた。1時間の授業で踊りを覚え、最後には、銀山で行われていた作業労働を想像しながら楽しく踊っていた。

筆者が捲上げ節の指導のポイントとして留意した点は、次のとおりである。(写真4～8は、大田小学校 矢田悦夫校長提供)



写真4 めあての確認や由来の説明等

- 45分の時間配分を考え、上記の板書のように授業のめあて(ねらい)や流れをあらかじめ掲示し、子どもたちに見通しをもたせた(写真4参照)。
- 授業の導入では「大田小学校の6年生がこれまでの銀山学習でしてきたこと」を想起確認させ、「本時のめあて」「石見銀山の労作唄や捲上げ節の由来」を分かりやすく短時間で

説明した（写真4参照）。

○踊りを実際に指導する前に、指導者2人の踊りを子どもたちに見せることで唄と踊りのイメージをもたせるようにした（写真5参照）。

○筆者が体育館前面のステージに立ち、子どもたちは踊る方向を揃えて動きが覚えられるように指導した（写真6参照）。



写真5 指導者が踊りを見せる



写真6 踊りの指導の実際

○踊りの全容を指導してから「質問コーナー」を設定し、動きの分かりにくいところや曖昧なところを発言させ、確認してから仕上げの輪踊りを行った（写真7、8参照）。



写真7 質問コーナー



写真8 最後に仕上げの輪踊り

○最後に集合して、めあて（ねらい）に対応した学習の振り返りを行った。

○踊りの動き一つ一つに意味があることを伝えるとともに、子どものつぶやきや表情、動きを見ながら指導の言葉を選んでいった。

子どもたちは、授業に真剣に取り組み「質問コーナー」や最後の振り返りの場で気づきや感想をたくさん発表してくれた。これは、事前学習の学びに加えて、授業の約束として「間違えてもよいこと」や「指導者の話はしっかり聞くこと」等の授業のマネジメントに係わる事項を導入部分で伝えておいたことが要因の一つだと思われる。また、子どもたちが初めての踊りに不安感等をもたないように、授業のめあて（ねらい）や流れを明示し、わからないことや確認したいことが言えるような場面

(質問コーナー)を設定したことが不安感や恥ずかしさを軽減させるポイントだったと考える。

石見銀山捲上げ節を子どもたちに初めて指導する筆者にとっても新鮮な学びの機会となり子どもたちの言動や反応から勉強させていただいた。6年担任の先生が、石見銀山学習に捲上げ節を早速取り入れ、子どもたちの学びを深めようとされる姿勢に感心したが、大田小の矢田悦夫校長と6年担任、月森教諭から次のような礼状をいただいた。(下線は筆者)

○(前略) 子どもたちは、しっかりと覚え、学習発表会でも柔らかな所作で、雰囲気を出して踊っていました。保護者の方々にも見ていただきました。学校では、ふるさと教育を進めていますが、調べ学習だけでは、ふるさとへの愛着は育まれないと感じています。ふるさとでの体験が何よりのふるさと教育です。今回の石見銀山捲き上げ節を当時の人々の思いを感じながら体で表現したことは、子どもたちの心に残る学習になったと思います。ありがとうございました。

(大田小 矢田校長)

○(前略) 伝統を受け継ぐ貴重な経験となりましたことに心からお礼申し上げます。あれから、子どもたちは、踊りを完全に習得することができました。いただきましたDVDやパンフレットも大変重宝いたしました。1月の学習発表会で披露する予定です。(後略)(大田小6年担任 月森教諭)

上記の記述にある1月の学習発表会での6年生が捲上げ節を踊る動画は、国際交流をしているポーランドに贈られるそうである。

子どもたちの授業の感想は次のとおりである。(石見銀山テレビジョンのインタビューに答える子どもの言葉である。)

<子どもたちの感想> (下線は筆者)

○ 今日学んだことを、今後の学習等にかかしていきたいですし、全校のみんなにも広めていきたいです。

○ 踊りの一つ一つの動作に意味があることを知り、よく考えられているなあと思いました。この石見銀山捲上げ節を家族と一緒に踊りたいです。

○ 石見銀山捲上げ節を踊ってみて、はじめは難しいと思っていたけど、踊ってみたらすごく楽しかったので、これを銀山学習につなげていきたいです。

このように、子どもたちは踊りという身体活動を通して、その当時の人々のくらしや生業を考えるきっかけとなり家族や下級生にも伝えたいという思いをもってくれたようだ。また、DVDやパンフレットを視聴することで踊りを完全に習得し、学習発表会では柔らかな所作で雰囲気を出して踊るほどになったことが分かった。

このことから、教材としての内容を整え、パンフレットやDVDを制作

し指導法を工夫することで学校教育の中でのフォークダンス（日本民踊）の可能性を広げることができたと考える。加えて、体育科だけではなく、石見銀山学習のような総合的な学習の時間や学習発表会などの特別活動においても教科等横断的に学びを深めることが明らかになった。

今後、大田市教育委員会や大田市小・中学校校長会などの関係機関とも連携し、要請があれば学校現場へ入り、子どもたちへ直接、捲上げ節の指導ができるように働きかけていきたいと考えている。また、そのためには、要請があればいつでも指導できる指導技術の向上やその研鑽を継続していく。

6. まとめ

以上のように、本研究を通して、学校教育におけるフォークダンスの素材を発掘し、教材としての内容を整え、教材を制作し指導の方法を明らかにすることができた。

島根県は古代、神話の時代から自然文化に恵まれ、地域の教育資源（踊りの文化）が豊かであり県内各地に価値のある日本民踊が存在する。この島根県の特徴を生かし、地域の課題を注視しながら、今後も行政をはじめとする関係機関と連携協働し、地域にとって価値ある踊りの発掘や調査研究、学校教育への普及につとめていきたいと考える。

7. 謝辞

本稿をまとめるにあたり、大田市教育委員会武田祐子教育長や大田小学校の矢田悦夫校長先生をはじめ、6年担任の月森先生、奥村先生、大田小学校の6年生の皆さんのご理解、ご協力に厚くお礼申し上げます。また、筆者の考えに賛同しご理解、ご支援いただいた石見銀山資料館の仲野義文館長、大田市大森町の皆様、島根県フォークダンス連盟の出構会長、多久和淑子氏をはじめとする会員の皆様にも深く感謝の意を表します。

【注】

- 1) 公益社団法人日本フォークダンス連盟は、昭和31年に設立。地域に密着した活動からスタートしたフォークダンスは、いまや全国に広がり、全都道府県に合計49の支部が設けられている。各支部に所属する会員は全国で約10万人。5種目のダンスの普及に加え、学校教育での指導サポートや高齢者の方々に楽しんでいただくレクリエーションのお手伝いなど幅広く活動している。

- 2) ふる里の民踊とは、日本フォークダンス連盟が昭和 36 年から民謡舞踊の国内統一とその普及を目的に、全国から郷土民謡舞踊を採りあげて「ふる里の民踊」として全国に照会してきた。当連盟日本民踊委員会が現地調査を行い、各都道府県の教育委員会の選定として踊りの背景・踊り方・歌詞・音楽等に十分検討を加えて監修されている。
- 3) 全日本民踊指導者連盟とは、公益社団法人日本フォークダンス連盟傘下の組織であり、日本各地に伝承されてきた「日本の民踊」をとりあげ、民踊の普及活動及び国内統一を図るため、CD・DVDなどを監修している。
- 4) 楽しい民踊とは、全日本民踊指導者連盟が監修している CD や DVD の名称。
- 5) 島根県フォークダンス連盟は、令和 5 年度に創立 55 周年を迎えた公益社団法人日本フォークダンス連盟傘下の組織である。県内各地に 10 団体と個人会員、計 528 人が活動している。「フォークダンス」「レクリエーションダンス」「日本民踊」「ラウンドダンス」「スクエアダンス」を幅広く経験できる。講習会の開催をはじめ地域のボランティア活動にも積極的に参画している。

【引用文献・参考文献】

- ・ 文部科学省，中学校学習指導要領 解説保健体育編，1989
- ・ 文部科学省，高等学校学習指導要領 解説保健体育編 体育編，1989
- ・ 文部科学省，小学校学習指導要領 解説体育編，1998
- ・ 文部科学省，中学校学習指導要領 解説保健体育編，1998
- ・ 文部科学省，高等学校学習指導要領 解説保健体育編 体育編，1998
- ・ 文部科学省，中学校学習指導要領 解説保健体育編，2012
- ・ 文部科学省，小学校学習指導要領 解説体育編，2018
- ・ 公益社団法人日本フォークダンス連盟編集「ふる里の民踊Ⅳ」
- ・ 島根県教育委員会発行（1986 年）「島根県の民謡 民謡緊急調査報告書」
pp. 122